

## 「ホスピス緩和ケア／在宅診療のための合同チームカンファレンスや院内・院外との定例勉強会に活用」



## お客様プロフィール

爽秋会グループ様は、在宅ケアグループとして、在宅療養支援診療所、居宅介護支援事業所、サイエンス研究所を運営され、「安心して自分の家で療養したい」「人生の最後を自分の家で自分らしく過ごしたい」と願う患者とご家族の思いを大切に、医療（医師・看護師・作業療法士・鍼灸師）と介護のチームが連携しながら総合的なケアを行っていらっしゃいます。岡部医院様ではできるだけ在宅で過ごしたいと願われる終末期がん患者、神経難病患者、通院の困難な高齢者の方々に計画的な訪問診療を行い、2005年には約150名の終末期患者の方々をご自宅でお見送りされました。

団体名：医療法人社団爽秋会 岡部医院

所在地：宮城県名取市植松 1-1-24

URL：<http://www.soshukai.jp/>

業務内容：訪問診療、訪問看護を軸とした在宅療養支援診療および居宅介護支援

## 導入理由



事務局 北村 博幸様

北村氏「院長が日本ホスピス緩和ケア協会の理事をしていますが、会議のたび他県への移動が大変なので「テレビ会議」について情報収集を始めたとき、ちょうど日経新聞で“Web会議システム『SOBA CITY』無償サービス開始”の記事を目にしました。それがきっかけで、2006年4月からSOBA CITYを試用してみました。当院は在宅支援診療所として現在拠点を3箇所設け、主に訪問診療、訪問看護・介護等を行っていますが、移動時間のロスや経費面で、スタッフが一つの場所に集まるのが困難な状況でしたので、各拠点をつなぎ円滑に情報共有を行いたいという狙いもありました。

当初は色々と試行錯誤しながら、徐々に運用ノウハウを蓄積し活用してきました。SOBA CITYを利用し導入効果を十分実感してはいましたが、SOBA mierukaを採用した理由としては、何かトラブルがあった場合でもサポートがあるので安心かな、DVカメラで高解像度の映像が送れるので緊急時に手元の資料などを見せたい場合、「コレです！」と言って伝わるのは便利だな、という期待感からです。」

## 導入状況

北村氏「院内の合同チームカンファレンスにはSOBA mierukaを、そして院外の方々との定期的な勉強会ではSOBA CITYを、フルに利用しています。最初はやりにくいとの声もありましたが、慣れてくると頻繁に使い始めましたし、今では皆楽しんで使ってもらっています。

週3回3拠点（名取市／仙台市青葉区栗生／同区内二日町）医院と各訪問看護ステーションをつないで行うカンファレンスでは、アプリ共有で電子カルテ（ファイルメーカーのテンプレート）を見ながら、ドクター、作業療法士、鍼灸師、訪問看護師、ヘルパー、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーらが患者さんの診療・ケア方針などを話し合います。今まで患者宅から往復40kmも名取まで移動していた訪問看護師・ヘルパーもいましたが、現在では各々近くの拠点に立ち寄ってカンファレンスに参加し、在宅患者の状況などを報告できるようになりました。SOBA mierukaを導入して、移動時間・交通費が大幅に削減できましたし、カンファレンスが円滑に行われさらにスタッフ間のコミュニケーションがよくなりました。

また、月に1・2回定期的に開催する勉強会を3つ、宮城・福島・岩手・静岡・京都など5～9拠点をつないで開催しています。がん対策基本法の施行に伴い外部との勉強会等増えてくるため、さらに活用していくつもりで、まずは率先して東北支部内で実践しています。いずれは協会全体に広めて、全国での勉強会などにも発展させていきたいです。」

## 後記

岡部医院様は利用目的が明確で、Web会議システムのメリットを活かし存分に使いこなそうという意欲にあふれていらっしゃいました。ネットワークや情報機器に精通され、自ら電気店に出向き必要機器を購入されるという岡部院長、そして事務局の北村様が中心となって、Web会議システムを活用して関係者間の連携・交流を深めようと色々創意工夫しながら取り組んでおられ、お話をお伺いし大変刺激を受けました。

今後大いにSOBA mieruka／SOBA CITYをご活用いただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

（井村@SOBA 京都 2007.08）